

科学教材向け

産業技術総合研究所発ベンチャーでロボット開発のジェイエス・ロボティクス（牛久市上相田、佐藤仁社長）は20日、科学講座などの教材向けに昆虫型の小型ロボット製品を開発したと発表した。パソコンがなくとも制動のプログラムが可能で、子どもでも簡単に利用できるのが特徴。21日から秋葉原の販売店やインターネットでの販売を始める。

製品名は「てんとう虫ロボット」。長方形で大きさは長さ約5センチ、幅8センチ、高さ3センチ、重さは約53グラム。コンピュータの小型基盤に携帯電話の振動モーター、赤外線センサーなどを組み合わせた。先端だけ残した2個の歯ブラシを駆動用に取り付けた。上に昆虫の絵を描いた紙をかぶせる。電源は単4電池2個。

使い方は、内蔵プログラムや使用者の手作りによるプログラムをロボットに読み込ませることで、64通り

昆虫型小型ロボット開発

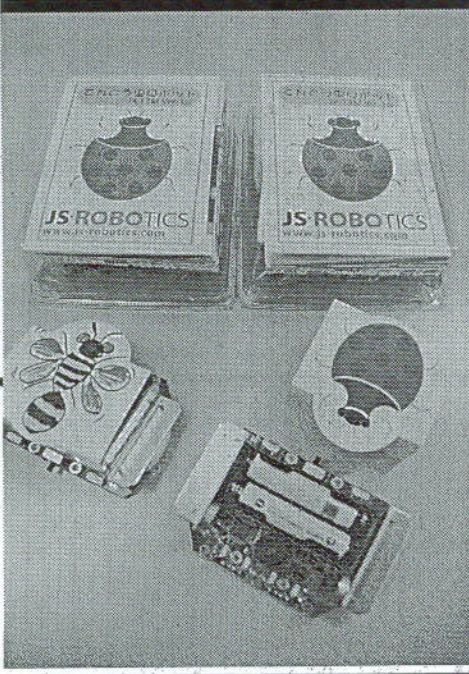
の複雑な動きやオルゴール演奏を楽しめる。複数のロボットによる相撲や綱引きもできる。

教育用としては、ロボットの赤外線センサーで紙に描いた白黒の模様を読み込ませプログラムを作れる機能を生かし、子どもらにプログラムの方法や仕組みを学ばせることが可能となる。

販売対象は教育現場や体験施設など。趣味のおもちゃとしてや海外にも販売する計画。当面1000個の販売を目標にする。価格は4980円。（綿引正雄）

科学の教材用に開発された「てんとう虫ロボット」

ジェイエス・ロボティクス



記事の文頭に、産業技術総合研究所発ベンチャーと記載されておりますが、弊社は、産業技術総合研究所発ベンチャーでは有りません。